

令和7年度 奨励論文

地下アイドルは儲かるのか

武蔵大学

経済学部 経営学科 企業会計コース

山下ゼミ所属

学籍番号 1242135 1243072 1242005

氏名 清水彩佳 河角雪乃 朝倉美咲

～要旨～

本研究は、「地下アイドルは儲かるのか」という問いを中心に、地下アイドルの収益構造とその実態を明らかにすることを目的とした。近年、推し活市場の拡大により、地下アイドルも高い収益性を持つと語られることがあるが、実際には安定した収入を得ることが難しいとの指摘も多い。そこで本研究では、地下アイドルのライブ活動に着目し、ネットリサーチ、実地調査、現役地下アイドルへのインタビューを通じて、具体的な収支構造を分析した。

調査では、秋葉原周辺の小規模ライブ会場を想定し、会場レンタル費や人件費、チェキの原価などを算出した上で、複数の地下アイドルをサンプルとしてライブ1回あたりの収支を比較した。その結果、主催ライブ・ゲスト出演いずれの場合においても、会場費や人件費といった固定費の負担が大きく、最終的な利益は数千円程度にとどまるケースが多いことが明らかとなった。

特に、ライブ出演そのものでは固定給が支払われない場合が多く、収入の大部分はチェキ販売に依存している点が地下アイドルの大きな特徴である。チェキは利益率が非常に高い一方で、売上はファン数や個人の人気に大きく左右され、チェキが売れなければ収入がほぼゼロになるという不安定な構造が確認された。また、人気の差がそのまま収入格差につながるため、メンバー間での経済的格差が生じやすいという課題も浮き彫りとなった。

さらにインタビュー調査からは、衣装代や楽曲制作費など、活動を継続するための自己負担が多い実態も明らかになり、地下アイドル活動は収益面・コスト面の両方で厳しい状況にあることが示された。以上を踏まえ、本研究では収益安定化の方策として、クラウドファンディング、オンラインサロン、ライブ配信といった、ライブやチェキに依存しない収益モデルの活用を提案した。地下アイドルが長期的に活動を継続するためには、ファンとの密接な関係性を活かしつつ、複数の収益源を組み合わせた持続可能な仕組みづくりが不可欠であると結論づけた。